

目次		1
<b>課題研究報告：フランス教育学研究における到達点と課題—その2</b>	園山大祐	5
教育思想（史）・哲学研究の立場から	室井麗子	9
教育制度・教育行政研究の立場から	藤井穂高	19
教師教育研究の立場から	松原勝敏	29
高等教育研究の立場から	夏目達也	39
「フランスおよびフランス語圏の教育」研究をとりまく困難について	坂倉裕治	49
フランス教育学研究における到達点と課題	池田賢市	51
—シンポジウムで問われたこと—		
<b>研究論文</b>		
第四共和制初期における仏領アルジェリアの教育改革	ソッティエーレ, マルコ	55
—ムスリム児童とその家族に対する女性教育実習生の眼差しに着目して—		
デカルト動物機械論に対するブージャンの嘲笑	辻 和希	69
—18世紀フランスにおける動物論の兆し—		
後期レヴィナスの主体概念の時間論的考察	中川弘輝	83
—隔時性に基づく歴史記述の行為に着目して—		
第三共和政前期女子中等教育における歴史教育の開始	秋永沙穂	97
—歴史の「女性化」の提唱とそれへの批判をめぐって—		
フランス初等中等教育における「教授の自由」の原則	上原秀一	111
—2005年学校基本計画法以降の争点—		
<b>研究情報</b>		
2022年のフランス教育の動き	小島佳子	129
<書評①>平田文子『デュルケーム世俗道徳論の中のユダヤ教	辻 和希	133
—ユダヤの伝統とライシテの狭間で』（ひつじ書房、2022年）		
<書評②>安喰勇平『レヴィナスと教育学—他者をめぐる教育学の語り	吉野 敦	137
を問い直す』（春風社、2022年）		
<書評③>坂本尚志『バカロレアの哲学』（日本実業出版社、2022年）	細尾萌子	139
<書評④>星野映・中嶋哲也・磯直樹 編著 小林純子・有山篤利 著『フ	岩崎久美子	143
ランス柔道とは何か—教育・学校・スポーツ』（青弓社、2022年）		
<自著を語る①>森田裕之『ドゥルーズ＝ガタリ「アンチ・オイディプ	森田裕之	149
ス」を読む』（作品社、2022）		
<自著を語る②>園山 大祐 監修・監訳、田川 千尋 監訳、京免 徹雄・	小畑理香	151
小畑 理香 編著『教師の社会学—フランスにみる教職の現在とジェン		
ダー』（勁草書房、2022）		
<図書紹介①>服部憲児『フランスの教員養成制度と近年の改革動向』	松原勝敏	153
（ジヤース教育新社、2022年）		
<図書紹介②>富士谷あつ子ほか編『フランスに学ぶジェンダー平等の	大津尚志	157
推進と日本のこれから』（明石書店、2022年）		

＜図書紹介③＞園山大祐「フランスにおける早期離学の現状からみた教育制度の構造的課題」（横井敏郎編『教育機会保障の国際比較—早期離学防止政策とセカンドチャンス教育—』所収）（勁草書房、2022年）	島埜内恵	159
＜図書紹介④＞エミール・デュルケム、古川敦（訳）『教育と社会学』（丸善プラネット、2022）	綾井桜子	163
＜図書紹介⑤＞Jean-Michel DE WAELE, Ahmet INSEL (dir.), <i>Quand la pandémie bouleversa le monde</i> (Larcier, 2022).	鈴木規子	165
＜映画紹介①＞『アプローズ、アプローズ！ 囚人たちの大舞台』（Un triomphe, 2020年）	渡邊優子	167
＜映画紹介②＞『エール！』（La Famille Bélier, 2014年）	川上若奈	169
＜教育事情の日仏比較＞学級生活における市民活動	京免徹雄	171
<b>学会彙報</b>		
2022年度の会務報告	島埜内恵	177
2022年度の大会報告	田川千尋	178
紀要刊行規定・編集委員会日誌		179
投稿規定・執筆要項		180
フランス教育学会会則		182
役員リスト・編集後記		183